

# 地震保険セミナーを開催

損保協会近畿支部 / 兵庫県代協

## 阪神・淡路大震災から25年の節目に



200名超が参加したセミナー会場の様子



中村会長

開会に際し、主催者を代表し損保協会近畿支部兵庫県代協の中村哲会長が「兵庫県に甚大な被害を及ぼした阪神・淡路大震災から間もなく25年を迎える。本日は、震災を

### 震災の教訓を共有 有識者ら3名が 地震リスク等で講演

損保協会近畿支部ならびに兵庫県代協の共催(兵庫県後援)による地震保険セミナーin神戸(阪神・淡路大震災から25年、震災を振り返り、震災に備える)が、令和元年12月16日午後1時から、兵庫県民会館けんみんホールで開催された。代理店・保険会社、一般消費者等200名超が参加し、大震災の経験を踏まえて来るべき震災に対する防災、地震保険の普及促進の必要性を学んだ。



室崎教授

改め振り返り、その教訓をしっかり共有し、これから兵庫県の地震リスクについて学び、今後起こり得る南海トラフ地震等への備えの一助として「いたきたい」と挨拶。また、来賓挨拶として兵庫県企画民防防災企画局の森田克彦局長が井戸敏三兵庫県知事のメッセージを代読した。

セミナーでは、有識者等3名が阪神・淡路大震災の課題や体験談、兵庫県の地震リスク等について講演を行った。最初に、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長の室崎益輝教授が「阪神・淡路大震災から25年を迎えて」と題して講演を行い、震災からの生活復興と被災者支援、震災の教訓、残された課題、次世代への備え等について説明した。その中で同氏は「時間の経過とともに震災に対する意識、認識が薄れてきている気がするが、決して忘れることなく経験者である我々が一つひとつ課題を解決し次世代へ引き渡していかなければならない」と述べた。

続いて、気象庁神戸地方気象台の武丸光悦地震津波防災官が「兵庫県の地震・津波リスクと防災情報の活用について」をテーマに講演。2018年中に兵庫県内で震度1



武丸氏



磯崎氏

以上を観測した地震の数は47にも及んだことを紹介するとともに、南海トラフ地震を含めた兵庫県で発生する地震の特徴、地震・津波の被害について動画を交えながら説明した。そしてまとめとして、地震や津波の被害を軽減するためには①地震や津波の特徴を知る、②地震は「普段の備え(危険箇所の確認も)」が重要、③津波は「避難(訓練は欠かせない)」が重

要、④緊急地震速報、津波警報などを活用することだと強調した。最後の講演では、兵庫県代協の磯崎比呂志氏(株式会社保険家こうの)が「震災を乗り越えてく代理店と地震保険の社会的意義」を講演した。自ら経験した被災時の代理店としての対応や保険会社やお客様の安心・安全のために地震保険を勧める



塩谷会長

この大切さ等について話した。また、情報提供として、兵庫県が実施する自然災害に関する共済制度「兵庫県住宅再建共済制度(フエニックス共済)」が紹介されたほか、損保協会近畿支部の小峯雅也事務局から同協会が実施

する地震保険の加入促進の取組みについて説明があった。最後に、主催者を代表し兵庫県代協の塩谷広志会長から「地震保険に入っているかいないかで明暗が分かれる。加入しておれば加入者は少なくとも将来に希望を持てる。兵庫県は阪神淡路大震災を経験したにもかかわらず、2018年度の付帯率は全国で28位にとどまっている。今日のセミナーで我々代理店の使命を感じていただけたと思う。フエニックス共済と合わせて募集をしていた「いたきたい」と閉会あいさつがあり、セミナーは盛況のうちに終了した。

参加者からは「阪神・淡路大震災を経験した方の話は胸に迫るものがあった」「こうしたセミナーを定期的に開催することが震災を風化させないことにつながるのではないか」等の声が寄せられた。



(損保版)

第1~4月曜日発行  
発行所 新日本保険新聞社  
大阪市西区朝本町1丁目5-15  
(郵便番号550-0004)  
電話 (06) 6225-0550 (代表)  
FAX (06) 6225-0551 (専用)  
購読料 1か月2200円  
(消費税、送料込み)  
©新日本保険新聞社 2020

シンニチ保険Web

www.shinnihon-ins.co.jp

購読者専用バックナンバー  
閲覧パスワード

Leviathan

2020年2月3日 AMまで

※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更